

企業名：太平洋セメント株式会社

レポート名：『太平洋セメントレポート 2022』分析

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

太平洋セメントの統合報告書では、具体的な目標や将来目指している企業像が明確に述べられている。第一に、社長メッセージでは、セメント産業が人々の生活を支えるエッセンシャル産業であることについて触れ、また自社がその産業を担う責任があると自覚し「圧倒的なリーディングカンパニーへ」という目標を掲げている。第二に、23 期中期経営計画では利益率の向上を目指すことや海外への成長投資を通し自社グループのプレゼンスを拡大させるなどの具体的な目標が記述されている。第三に「カーボンニュートラル戦略 2050 の策定」などがあるように、太平洋セメントはカーボンニュートラル実現に向けて工場での革新技術の展開を進めるなど持続可能な社会の実現に尽力していることが伝わる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

太平洋セメントの統合報告書では 5 つの競争優位性が挙げられている。

1. 世界トップレベルのセメント製造環境技術

セメント原燃料として産業廃棄物・副産物、生活ごみやその焼却灰に加え、近年では災害廃棄物も処理することで資源循環型社会構築への貢献を果たしている。

2. セメント・資源製品の安定供給力

当社グループが国内に有する稼働中の石灰石鉱山は 11 カ所、年間の採掘量は 4,000 万トン強と国内最大量の石灰石資源量を誇っている。さらに 23 中計期間を含む 2030 年までの 10 年間では、鉱山強靱化に 1,000 億円を投じ 100 年先を見据えた安定供給体制の構築を図っている。

3. グローバルネットワーク

国内 9 カ所、米国西海岸・中国・東南アジアなどの環太平洋地域に 9 カ所のセメント工場を展開し、高い技術で高品質のセメントや建設資材を提供することでインフラを支え続けている。

4. 多様性に富んだ組織

人は企業にとって最大の資本であるという考えのもと、従業員の安全と健康を最優先にした職場づくりをおこなっている。

5. 安定した財務基盤

2013 年度から 2020 年度まで 8 期連続で営業利益 600 億円以上を計上するまでに収益性を高め、2018 年に取得した発行体格付の A 格を今年度まで維持している。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

どの国でもインフラ整備のため需要のあるセメント事業において、海外のネットワークを持っていることは大きな強みであり、さらに太平洋セメントはベトナムやフィリピンといった新興国への成長投資を継続しているため、グローバルネットワークという競争優位性には持続性があると思われる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

太平洋セメントは統合報告書において「人は企業にとってバランスシートに載らない最大の資本」と述べている。そして人を大切にし、それをもとにした事業運営を行うという方針をとっている。人材育成においては、セメント製造は特殊な技術やノウハウが必要であるため、各工場の中堅エンジニアを対象として、セメント製造に係る専門的な知識を集中的に学ぶ「テクノスクール」や、協力会社従業員も対象とする設備メンテナンスや点検のスキル向上を学ぶ保全道場」も開設して学びの場を提供している。また、他にも人材育成はOJTを基本にスキルアップを図っており、全部門に共通するスキルとマインドの強化を目的に階層別研修を実施するなど従業員の教育の力を入れて取り組んでいる。また、ワークライフマネジメントを推進して生産性の向上と、多様な人材の能力を最大限発揮できる組織の構築を目指している、このように人材教育が充実していることから、太平洋セメントで自身の人的資本の価値向上を達成できると考えられる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

トップメッセージのページの横に関連記事が載っていて、トップメッセージと具体的な内容との関連が分かりやすい。また、ある項目を重点的に読みたい人にとっても読みやすい工夫となっている。改善する点としては、カーボンニュートルの実現に向けての内容の文章が複数のページに重複した内容のものが載っていたのもう少し簡潔にまとめても良いかもしれない。